

住まいからはじまるまちづくり

NPO 法人 八尾すまいまちづくり研究会理事長 大野鶴夫

はじめに

八尾すまいまちづくり研究会は通称「まち研」と呼ばれています。「まち研」は平成5年3月に策定された八尾市地域住宅計画（HOPE 計画）をきっかけに、市内在住在勤の建築家を中心にあつまった専門家集団です。

「住んでいいとこ八尾」をキーワードにした地域住宅計画は私たち市内で建築を業とする者と行政との関係を大きく変えました。それまでの建築指導課のカウンターを挟んで「指導する・指導される」の関係から「住んでいいとこ八尾」の実現をめざすパートナーして「一緒に協力する」関係に変わっていったのです。

行政には公共建築の専門家はいますが、住宅の専門家はいません。私たちは専門家としての良心にかけて、日々市民に快適で安全な住まいづくりを啓発してきました。確かに住まいは個人の財産ですが、集まれば家並みとなり、やがてまちなみとなってまちの風景をつくっていきます。住まいからのまちづくりは、一人ひとりの市民が快適で安全で町並みに調和した住まいづくりを心がけることから始まります。私たちは、行政と協力して専門家としての知識や経験を市民に伝えるためにさまざまな取組みを展開しています。

平成11年には、NPO 法人としての認証をうけ、八尾市からの委託事業の実施や住宅マスタープラン策定に専門家として参画するなど、八尾市の住宅政策に全面的に協力してきました。この間、建設省（当時）住宅局長表彰や大阪府のまちづくり功労表彰、市民表彰などを受賞し「まち研」の活動は広く市民に知られるようになってきました。

以下に具体的な活動状況をご紹介します。

「まち研」はこんな活動をしています

現在の活動としては、住まいなどの情報の市民への提供活動（イベント・講座や子供たちに向けての活動を含む）、住まいに関するアドバイスや相談に関する活動、住まいやまちづくりに関する調査・研究活動（提案を含む）、地域のまちづくりの支援活動などを会員の得意分野ごとにグループをつくって活動しています。

その1 住情報・住教育関係

八尾市の委託事業として平成13年度より年1回、市役所の市民ロビーで住宅月間（10月）を中心に、すまいやまちに関する展示会を行っています。H18年度は「ちょっとむかしの暮らしと住まい（見つめなおそう暮らしの安全）」昭和の生活道具など小物の展示や



H18年度「ちょっとむかしの暮らしと住まい」

住まいの変遷、耐震などの住まいの安全についての展示を行ないました。

H17年度は、「ワクワク住まい・まち体験学習大発表会」、H16年度「大和川付替え 300周年新田今昔」展、H15年度「私の好きな八尾」展、H14年度は、「家ができるまで」展、H13年度「八尾の民伝統民家に学ぶすまいづくり」展など、住まいや住環境などのテーマで展示しています。毎回1000名以上の市民の方にご覧いただいています。

出前住まい講座として、平成13年より2年にわたり、八尾市にあるコミュニティーセンターなど12ヶ所を巡り、地域の方々たちと「私の好きな八尾マップ」をつくり、「まち歩き」の企画を実施しました。H16年度は、「大和川付替え 300周年新田いまむかしまち歩き」を開催しました。



H16年度「大和川付替え 300周年新田いまむかしまち歩き」

H17年度より親子で楽しむ「リフォーム体験シリーズ」と題して親子を対象にした住ま

いづくり体験教室を久宝寺のまちなみセンターでH17年度は「ランプづくり」、H18年度は「タイル編」を開催しています。

子供たちに向けた住まい・まち体験学習として、H15年度より取組み始め、住まいや建物・まちに関するいろいろな内容を、子どもたちに向けて発信しています。総合学習の時間においてフィールドワークのサポートや、八尾の校区外のまちの様子を紹介、日本の他のまちの様子、海外のまちの様子などの授業や、地域の昔の様子を地図や写真を用いて授業をおこない、小さいころから住まいやまちに興味を持てる



「まち研ハウス」の小学校での授業の様子

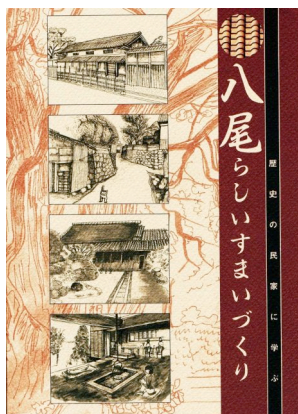
“きっかけづくり”をしています。同じく、体験学習の一環で、「まち研ハウス」の授業も行なっています。約2帖大の木製軸組みと、いろいろな素材や色のパネルを組み合わせて自分たちで考えつくる小さな建物です。光の取り入れ方や色彩・素材・耐震について学べます。小学校の各学年のカリキュラムに沿った利用の仕方やイベント的な利用の仕方があります地域行事としても利用可能です。

これまでキッズプラザ(大阪市)・北山本小・桂小・竜華小で実施しました。

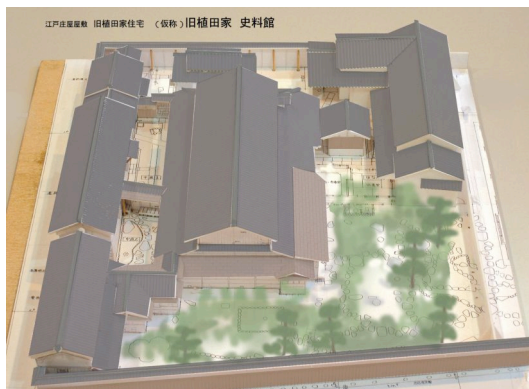
その2 調査研究活動

調査研究活動として、八尾市や柏原市に残る伝統民家の調査や改修を行っています。今、何かの形で残さなければやがて姿を消す民家もあり、数少なくなった日本の伝統的な住まいの記録を本にするなどして、昔の良さを伝える活動をしています。その他の調査提案活動として、八尾市内の再開発計画やまちづくりに対する提案(竜華操作場跡地利用等)や、

分譲マンションの管理実態調査など専門家としての視点を生かした調査、研究、提案を行っています。また、H17年度は八尾市内の江戸時代の庄屋屋敷である「旧植田家住宅」を復元整備し、収蔵品の鑑賞や歴史や文化の体験のできる施設をつくるための基本構想・基本設計の作成をしました。



「八尾らしいすまいづくり」の本の表紙



(仮称)旧植田家史料館整備 計画模型写真

その3 相談アドバイス活動

相談・アドバイス活動としては、平成16年度からは毎週1回の割合で無料「すまいづくり相談室」を市役所で行っております。市民の方の住まいに関する不安や疑問にお答えしています。また、介護保険による住宅改修助成の理由書作成や、工事検査を八尾市から受託しています。検査がしっかり行われるため、初動期に他市でおこっていた工事後のトラブルもほとんどありません。そして、高齢者のための高齢者住宅改修助成を担当する八尾市の住宅改修チームに、建築専門家アドバイザーとして、改修案のアドバイスや見積のチェック・検査などをおこなっています。八尾市におけるこの仕組みは大阪府下の中で高い評価をされています。

また、平成18年度は、住まいの耐震に関心を高めいただくための無料耐震診断を市より受託し、10件の耐震診断を実施しました。



高齢者住宅改修の積算資料

その4 まちづくり支援活動

まちづくり支援活動として、地域でのまちづくり活動のサポートを行っています。建築物や道路などのハードなまちづくりサポートだけでなく、地域の福祉システムづくりや調査、地域の暮らしの歴史を知り記録する「昔マップづくり」などのソフトのサポートなども行っています。



幸第2公園をつくるワークショップの様子

現在、市営住宅の改善事業の調査や地元の意見をまとめるお手伝いや、公園づくりのワークショップのサポートを行っています。

その5 その他の活動

その他の活動としては、市民向けに住まいの啓発情報紙（HOPE ニュース、住まい瓦版）の編集、講演会やフォーラムの開催、研修会の開催、まちづくり先進都市見学（有田町・山口市など）、他団体との交流など、住まい・まちづくりに関するあらゆる分野での幅広い活動を行っています。

これからの「まち研」

平成18年には国も住宅建設法を廃止し、新たに住生活基本法をスタートさせました。少子高齢社会の進展で、住宅政策も新規供給からストック重視に大きく方向転換しています。そうした環境変化の中で私たち「まち研」も行政との関係だけではなく、市民との関係をもっと深めていかないといけないのではないかと考えています。特に、阪神淡路大震災の経験は私たち専門家にとっても衝撃でした。しかし、安全な住まいづくりに向けた「耐震診断」や「耐震補強」はすすんでいません。

市民に住まいにもっと関心を持ってもらうためには建築士だけではなく、住まいにかかわるさまざまな職種の方とネットワークを組んで信頼性のある情報提供をおこなうことなどがが必要です。快適で安全な住まいづくりに向けて私たちがやるべき課題は山積しています。

そんな「まち研」の誇りは「風通しのよい組織」であることです。毎月第2火曜日の理事会は流れたことはありません。会員なら誰でも理事会に参加できますし、それぞれのグループの活動状況を報告し活発な意見交換をおこない、行政の担当者とは委託事業の円滑な実施に向けて知恵をしぼっています。

「住んでいいところ八尾」をめざして、これからも「まち研」は頑張ります。